

平成23年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地地域ビジョン推進委員会 議事概要

- 日時：平成24年2月23日（木）10:00～12:00
- 場所：大野市役所3階 大会議室
- 議事：(1) 平成23年度の各機関の取り組み状況
 - (2) 平成24年度の活動予定
 - (3) 規約の改正
 - 委員の委嘱及び委員長を選出

1. 平成23年度の取り組み状況と平成24年度の活動予定についての主な質疑応答、意見等の内容は、以下のとおりである。

1) 森と湖に親しむ旬間行事について

九頭竜川ダム統合管理事務所が実施した各見学会でのアンケートによると、真名川ダム会場では県内の人が多く、ほとんどの人が新聞などを見て来訪している。九頭竜ダム会場では通りがかりの人が多く、あそこの道路は、岐阜県との交流の重要なところであると感じている。「通りがかり」といえば、例えば、サッカーの合宿に行く途中のチームのバスがたまたま止まって見ていってくれるという事があり、ああゆう箇所がある事によってうまく交流が進んでいくと思われ、これからも関わっていきたいと思っている。

2) 九頭竜新緑まつり・紅葉まつりについて

九頭竜川ダム統合管理事務所は、新緑まつり、紅葉まつりで流木配布を行っているが、わりと人気がある。「これ車に積めるの」といったものでも持って行ってくれる。

こんなことと思っても、続ける事によって人気が出てくるもので、これからも続けていきたいと思っている。

3) NPO ドラゴンリバー交流会の活動（植樹関連）について

私達は九頭竜川水系で活動しているが、各河川の水源地でドングリのなる木を中心に植樹を行っている。今年は、竹田川上流の龍ヶ鼻ダムでは歩いてダムを見学してその上流で県の土木の方やダム関係者、地元の方たちと300本くらいを、足羽川の旧美山町の蔵作では保育園の子供達と、日野川上流の榎谷ダムでは企業とまえだの森という形で1町歩余り、それぞれ植樹を行った。

毎年植樹に行くところは、前年の植樹がどうなったかを確認できるが、その他のところはなかなか確認ができない。根つきがうまくいかないので、今年は、根を深く掘る事、腐葉土と一緒に植える事を行ってもらった。来年は根がついているのではないかと楽しみにしている。

それから、苗木作りに苦労している。各会員にはどこへ行く時でもドングリを拾ってきてもらい、各自が育てるという事を行っているが根がうまく出せない。私も1,000個ほど蒔いて、苗木に育ったのは300本ほどだった。植樹出来るまでには3年～4年かか

るということもあり、関係者にドングリを拾って来てくださいますようお願いしている。

4) 大野市漁業協同組合の活動について

イトヨの里というのが大野市にあり、湧水地域の貴重な自然環境を保護したいという事で、イトヨの里の館長さんと調整をとりながら、道具を持ち寄り池の清掃と雑魚の駆除を、毎年2回春と秋に行っている。また、近頃、小中学生の河川活動があまりみうけられない事から、昨年で2回目になるが、大野市、県等のご協力を得て、4回「つり教室」を開催した。

植林活動についても、毎年参加させて頂いているが、組合員諸氏にもっとアピールして、活動参加を呼びかけていかなければと考えている。

5) 真名川ダム弾力的運用管理について

<質疑> 「真名川ダム弾力的管理検討委員会に諮り」とあるが、どういったメンバーが入っているのか。地元の関係団体は入っているのか。

<応答> 京都大学の教授が委員長で、大野市行政戦略課課長が副委員長をしている。委員は、福井の陸水生物研究会の世話人の方、ビオフレンズの方、国土交通省近畿地方整備局の方、県の河川課課長、福井の自然保護センター、奥越土木事務所、電力関係、団体では漁協の組合長さん、真名川土地改良区さんとなっている。

6) NPO ドラゴンリバー交流会の活動（外来植物の駆除関連）について

県と相談して「セイタカアワダチソウ」というどうしようもない2~3mの草の駆除を行なうという事で、会のメンバーである企業に呼びかけたところ、25団体約80名が集まり、福井市街地を流れている足羽川の河川敷で約2kmにわたり駆除を行った。

この事が大変評判になり、県下のロータリークラブ全部でやってみようという話が上がっている。三国ロータリークラブでは、越前鉄道のホームや沿線に生えているセイタカアワダチソウを駆除しようと呼びかけ、昨年実際に行っている。毎年やらないと効果がないので、今年も行う計画をたてている。

7) 九頭竜ダム湖の特定外来種の駆除について

奥越漁業協同組合が九頭竜ダム湖に特定外来種のコクチバスがいるという話を聞いたのは平成19年だった。平成21年から駆除活動に入り、今年で3年目となる。県から支援や補助を頂いているものの、半額負担と経済的に苦しいが、九頭竜川最上流にいる組合としてやはり駆除しなければならないという事で行っている。

平成21年のコクチバスの駆除の時にもザリガニがかかっていたが、去年の調査の時にかかったザリガニを福井大学の先生が調べた結果、これが日本で5県目の特定外来種のウチダザリガニという事で大騒ぎとなった。コクチバス、ウチダザリガニがダムの他の魚に対してどのような影響を与えているかを把握する事は、とても私たちにはできる事ではない。国交省が行って来た調査が平成23年度で終りという事を聞いているが、バス駆除を行っていく事、生存状況を調べていく事が困難になるので、何らかの形で県が引

き継ぐとか、国が新たな調査を行うとかに結びつけていってもらえないかと思っている。

下流の河川にバスなどの生物が入ってくるという事は、電源開発と3年前から行っている水生生物の調査の中でも発見されていないし、ダムの構造上、下流に落ちていくという危険性は無いという事は聞いているが、一般河川にコクチバスやウチダザリガニ等が蔓延するような事になれば、河川のまわりに被害が出てくる事につながる心配がある。ぜひこうゆう状況を把握して頂き、私たちが行っている活動への支援と同時に、できれば、大々的な捕獲工法が統一した形で取り組んでいける事になるとなおいと思っています。

8) 九頭竜森林組合の活動について

エコフィールド関係で参加させて頂いている。ドングリなどの苗木の調達が大変難しいという話があったが、エコフィールドではそういった苗木を子供たちや家族、関係団体みんなで作っているが、こういったところで連携し、たくさん作って提供できればと思う。

9) 子供たちの自然体験活動について

<質疑> 私が小さい頃は川と山だけの遊びだったが、今の学校教育は難しいところが、たくさん有ると思うが、川遊びなど、楽に取り入れていてもらいたい。

<応答> 私たちの小さい頃は自然の中で育ってきたが、現在は、小学校においては「子供だけで大きな川や湖へは行ってはいけません」という指導が徹底されている。私自身の38年間の教員生活の中で、大野の子供が大野の川で3人亡くなっており、そういった事を踏まえ、判断能力ができていない子供たちが自由に川に行く事については、止めざるを得ない状況になっている。ただし、森と湖あるいは水と慣れ親しむ活動という事で、ノーム自然環境教育事務所や真名川水辺の楽校ビオフレンズの指導を頂き、総合学習や理科の学習の中で、水辺の生き物調査等を行いながら、あるいは清掃活動等も取り入れながら、子供たちも一生懸命がんばって取り組んでいる。また、ここ2年程の間に、新たにビオトープを作ったり、改修した学校が2校ある。この夏には、NPO 法人九頭竜自然楽校の指導を頂き、カヌーを使った水辺の学校という事で、BGのプールや下半原の九頭竜湖で、子供たちがカヌー体験を行いながら自然体験を味わわせて頂いた。いろんな形で学校も教育委員会も取り組んでいきたいと思っているので、今後ともみなさんの支援をお願いしたい。

10) 大野青年会議所の活動について

ノーム自然環境教育事務所が行っている子供の自然体験というのは、私たちの活動にも少し関連してくるところがある。今まで連携させて頂いた事はないが、ぜひとも子供を自然に解放してあげられるような、大人として見張り番的な役割ができるのではないかと思った。要請頂ければ、積極的に協力させて頂きたい。

11) 活動報告、活動予定について

本ビジョンの推進に関連する事であれば、「こんな事やったんだよ」と報告を頂いて、記録として残す事により、みなさんに知って頂け、やっている事が見えるようになると思うので、事務局の方へ報告や資料の提供を頂きたい。

12) まとめ

各機関、団体のみなさんには今年度も活発に活動して頂いた。

森と湖に親しむ旬間を中心にその関連業務（九頭竜新緑まつり、紅葉まつり）には非常にたくさんの方においで頂いた事がまず挙げられる。

各団体で子供さんの水辺の教育、安全教育にも非常に熱心に取り組んで頂いた。

昨年話題になって今年も大きな問題となっている、外来魚と外来植物の駆除活動による環境保全も非常に重要な事になると思う。来年度もぜひ活発に活動を続けて頂き、さらに発展させて頂けたらと思う。

2. 規約の改正について

規約第6条に規定する事務局の構成員である大野市の組織変更に伴う規約改正の提案が事務局より行われ承認された。

3. 委員の委嘱及び委員長を選出

規約第3条第7項の規定により現委員の任期が満了するため、新委員の委嘱が行われ全委員が再任された。

また、委員の互選により委員長に福井大学教授が再選された。

以上